

平成 28 年度
認知症サポーター優良活動事例とサポーター講座展開優良事例
表彰団体一覧

部門

応募者

「自治体等認知症サポーターの活動事例」

キャラバン・メイト活動から発展した
認知症の人とサポーターの交流活動
～オレンジカフェから農園まで

じょいふるカフェ会
(神奈川県相模原市)

選考理由:キャラバン・メイトが域包括支援センターとの協力のもと立ち上げたボランティア団体により、介護予防教室、オレンジカフェ、農園活動(高齢者、認知症の人、障害者・児による)を実施し、認知症の人とサポーターが多様な活動を通じ、継続して交流、支援する場を創出している。

「自治体等認知症サポーターの活動事例」

認知症の人と家族が安心して情報公開できるまち

福岡市 南区 弥永小学校区住民
ほっとかれん隊
(福岡県福岡市)

選考理由:サポーターとキャラバン・メイトにより実施されている「巡回カフェ」、行方不明時を想定して綿密に作成されたマニュアルを準備しての「声かけ訓練」に多様な層の住民が参加することにより、認知症の人・家族が必要な情報をオープンにできるまでに地域における理解の土壌が醸成されている。

「企業・職域団体における認知症サポーターの活動事例」

消防活動から得た認知症対応の心得を地域へ
～ヘルパーとも協力して

座間市消防本部・座間市消防署
(神奈川県座間市)

選考理由:消防職、消防団員等に向けたサポーター養成だけでなく、消防職員がキャラバン・メイトとなり、災害活動における認知症対策の重要性を踏まえた講座を地域で行うことを通じて、認知症の人を含む高齢者世帯に対応した消防・救急の体制と地域連携が構築されている。

「企業・職域団体における認知症サポーターの活動事例」

警察が推進する認知症高齢者を行方不明者にしない地域づくり

京都府警察本部
(京都府)

選考理由:警察本部長以下ほぼ全職員のサポーター養成、全警察署へのキャラバン・メイト配置による対応力向上を土台に、府及び市町村、地域包括支援センターとの連携を図り、認知症の人の行方不明時捜索体制の構築を主導している。

「キャラバン・メイトの創意工夫による
サポーター講座展開事例」

多職種メイトの連携で展開する 10 時間の福祉授業カリキュラム
～認知症を知り福祉を考える小学生を育てる

北海道清水町
鈴木 康功
(北海道清水町)

選考理由: 多職種のメイトが連携し、サポーター講座を中心とする小学生向けの 10 時間のカリキュラムを組み、福祉の意味を自ら考えられる授業を展開している。

特別賞

「企業・職域団体における
認知症サポーターの活動事例」
※発表は行いません。

実行性・継続性ある地域と店舗の連携体制

(株)イトーヨーカ堂

選考理由: 店舗のある自治体との見守り協定締結を契機に、各地域の実情、課題に個別に対応した見守り、買い物支援等をきめ細かく展開することで、店舗での取り組みが地域の行政、住民の連携に働きかける効果をもたらしている。